

さいたま市総合振興計画審議会 第1部会（第1回） 会議録

日時	平成25年5月7日（火）午後1時30分～午後3時45分
場所	市役所第二別館 第3会議室
出席者 （敬称略）	〔委員〕計11名 秋元智子／石関精三／猪瀬良一／上田彰一郎／久野美和子／作山康 ／中邨登美枝／丸山繁子／茂木泰和／森本章倫／吉田貴昭 〔事務局〕さいたま市 政策企画部：江口部長 企画調整課：松井課長／小島課長補佐／松尾係長／富田主査／ 猪狩主査／南主査／鈴木主任 他、関係局職員 〔傍聴者〕1名
議題	1 開会 2 定足数の報告 3 部会委員紹介 4 職員紹介 5 部会長選出 6 部会長挨拶 7 副部会長の指名 8 議題 （1）部会の進め方等について （2）都市構造について （3）都市基盤・交通の分野におけるこれまでの取組と課題等について （4）環境・アメニティの分野におけるこれまでの取組と課題等について （5）産業・経済の分野におけるこれまでの取組と課題等について （6）その他 9 閉会
公開又は 非公開の別	公開
配付資料	・ 次第 ・ 委員名簿 ・ 席次 ・ 資料1 部会の審議スケジュール（予定） ・ 資料2－1 将来都市構造の基本的な考え方（素案）【概要版】 ・ 資料2－2 将来都市構造の基本的な考え方（素案）

	・資料 3－1 分野別総括資料（都市基盤・交通） ・資料 3－2 分野別総括資料（環境・アメニティ） ・資料 3－3 分野別総括資料（産業・経済）
問い合わせ先	政策局 政策企画部 企画調整課 電話 048-829-1035

1 開会

2 定足数の報告

○**司会** さいたま市総合振興計画審議会運営要綱第5条第2項により、本部会の定足数は過半数と定められておりますが、本日の出席委員は、委員総数11名に対し全員参加となっており、定足数を満たしていることから、本日の部会が成立していることをご報告いたします。

3 部会委員紹介

○**司会** 本部会の委員の皆様をご紹介します。
(委員名簿順に委員紹介)

4 職員紹介

○**司会** 本日出席している事務局職員の紹介をさせていただきます。
(事務局職員紹介)

5 部会長選出

○**司会** さいたま市総合振興計画審議会運営要綱第4条第2項により部会長の互選をお願いしたいと思います。部会長の選出につきまして、ご意見をいただきたいと思います。ですが、いかがでしょうか。

○**中邨委員** 事務局から提案はありますか。

○**司会** ただいま、事務局からの案の提示について、ご意見がございましたが、事務局から部会長の案をお示しすることによろしいでしょうか。

(異議なし)

○**司会** それでは事務局から部会長案の提示をお願いします。

○**事務局** 事務局といたしましては、市内にある芝浦工業大学の教授で、都市計画の専門家である作山康委員にお願いできればと考えております。

○**司会** それでは、事務局案について、ご意見をいただきたいと思います。ですが、いかがでしょうか。

(異議なし)

○司会 ご異議がないようですので、部会長は作山委員にお願いしたいと思います。

6 部会長挨拶

○部会長 部会長を務めさせていただきます、芝浦工業大学の作山でございます。2年前までは都市計画プランナーとして全国のまちづくりをお手伝いさせていただいておりましたが、震災後の東北の人材不足を感じ、現在は母校で技術者を育てるため教育に携わっています。自分が関わっているまちはしっかり快適に創造的につくっていかねばならないと考えています。その中で、総合振興計画は非常に大事で、市の中心となる計画ですので、それに関わらせていただくという非常に有り難い機会をいただいたと思っています。若輩者ではございますが、どうぞよろしくお願いいたします。

7 副部会長の指名

○部会長 初めに、本部会の副部会長ですが、審議会運営要綱第4条第3項の規定により「部会長が指名する委員」となっていますので、私から指名をしたいと思います。産学官連携などに取り組まれている埼玉大学の特命教授である久野美和子委員にお願いしたいと思います。

次に、本部会の会議の公開につきまして、事務局から説明をお願いします。

○事務局 本部会の会議の公開についてでございますが、さいたま市情報公開条例第23条により原則公開とさせていただきますが、不開示情報に該当する事項について審議する場合等は、理由を明らかにした上で、会議の全部又は一部を非公開とすることができます。この公開、非公開については後程お諮りいただきます。

なお、現在のところ、傍聴希望者は1名となっております。

また、本部会につきましては、会議録を作成するための録音、記録のための写真撮影を行わせていただきます。会議録につきましては、各委員にご確認いただいたのち、部会長の承認を以って確定いたします。公開となる会議の会議録は、各区情報公開コーナーと市のホームページで公表する予定となっておりますので、あらかじめご承知ください。

○部会長 説明が終わりました。それでは、会議の公開と傍聴の許可について諮りたいと思います。先ほど事務局から会議の公開について説明がありましたが、本日は、会議を公開とし、傍聴を許可したいと思いますと思いますが、よろしいでしょうか。

(異議なし)

○部会長 ご異議がないようですので、本日の会議は公開したいと思います。

8 議題

(1) 部会の進め方等について

(資料1に基づき、部会が担当する分野、部会の審議スケジュールについて事務局から説明)

○部会長 ただいまの説明につきまして、ご意見やご質問等ございますか。

(意見・質問なし)

○部会長 それでは、本部会については、事務局案のとおり進めてまいりたいと思います。

(2) 都市構造について

(資料2-1に基づき、将来都市構造の方向性、将来都市構造を構成する要素、土地利用の基本方針について事務局から説明)

○部会長 本日は議題がたくさんありますので、最後にまた戻っても構いませんが、1つずつ審議していきたいと思います。

政令市の中でも、港湾を持たないのは、さいたま市の他に札幌市や京都市くらいで、それ以外の大半は海を持っています。さいたま市は、荒川や元荒川、見沼田圃など緑に囲まれている台地上の市街地という特徴を改めてきっちりと言うべきで、単に鉄道や交通が便利なまちというだけでは、横浜市や川崎市との違いが見えません。他市との違いがはっきりと分かるような魅力的な都市構造をきっちりつくろうということですね。

この都市構造について、ご意見やご質問等ございますでしょうか。

○森本委員 先ほどの説明について、理解を深めるために教えていただきたいことがあります。基本的には都市構造は変わるものではないので、平成16年策定の現行計画を踏襲しているとの説明でしたが、唯一違うのは、本市が目指す将来都市構造が「多核集約・連携型の都市構造」というように、「集約」という言葉が入ったことで、そこが特徴だと思って聞いていました。前回と比べて、今回はどこが新しい売りになっ

ているのでしょうか。

○事務局 今までも都市機能を都心・副都心等に集約するという方針で進めてきたわけですが、現実としては簡単に進んでいない部分もございまして、考え方としては変わっていないのですが、今回はあえて「集約」という言葉をここで強調して入れています。

その他として、各副都心にどのような都市機能を集積するのかということに関しまして、美園地区においては、今までスポーツ・交流・自然をテーマに掲げていたわけですが、今回はスマートホーム・コミュニティというものを進めながら、環境に配慮した良質な住宅地の形成を図り、スポーツ・健康・環境エネルギーをテーマとするなど、テーマ設定を少し変えています。大きく変わった点は以上になります。

○副部長 集約という言葉を入れた意味について、私が申し上げるものおかしいのですが、補足させてください。

今から数年前、国が中核都市構想を出した時、田舎に住んでいる人はどうするのかと、かなり反対がありました。なぜ集約と言いだめたかと言いますと、人口減少や財政的な問題で、人がほとんどいない地域にパラパラと居住していると、下水道や道路など公共施設を整備しなければならず非常に財政負担があるためでした。この地域もそうですが、新しく物をつくっていくという財政的な余裕がなく、修復や更新するだけで財政的に精一杯になってしまうという状況を、前向きな循環にするために、拠点や集約ということで、できるだけみなさんが安全安心に暮らせて、生活レベルを高くするように、ある程度集約していくという構造をつくらなければならないという日本全体の問題意識があります。

そういう中で、さいたま市が掲げる3つの将来都市像のうち、交流拠点都市というのは、首都圏に近くてどの地域とも交流できるという意味で、この地域のずば抜けた特徴だと思います。また、生活文化都市というのは、若い人が多く、これからは急激な高齢化など課題はあると思いますが、他の地域と比較しても、かなり優れた力を維持できるのではないかと思います。それから、環境共生都市は、今の主流でございまして、この3本軸をブラッシュアップして、拠点や集約のイメージをさらに強めていくということは、さいたま市の特色を生かした時代の流れだと思います。

○森本委員 私まったく同じ考え方を持っていまして、国の集約型都市構造の検討会や土地利用制度の改正の手伝いもしていました。これからの議論では、やはり「集約」というところを全面に押し出すべきで、ただ前回も「コンパクトなまちづくりへの転換が必要」と書かれていましたので、今回は一歩前に進むという意味で文字が入ったのかを確認するために質問させていただいたとご理解ください。

○副部長 今回は反対論はないと思います。

○森本委員 重要な視点ですので、最初に確認させていただきました。

○猪瀬委員 3. 1 1以降、市民の防災意識は変わっていて、情報の受発信手段やコミュニケーションのことはもちろんですが、緑は防災の意味合いも大きいので、緑地の持っている意味を計画の中で捉え直す必要があると思います。

○事務局 おっしゃる通り、3. 1 1以降、市民のみなさまの意識はかなり変わってきたと認識しております。これまで、市民の意見を聞くために開催しました市民ワークショップや市民アンケートでも、特に防災や防犯につきましては非常に多くのご意見をいただいております。そういったことを踏まえまして、都市構造の部分ではないかもしれませんが、総合振興計画の分野別のテーマでしっかりと今後の方向性などを定めていくようご協力いただきたいと思います。

○秋元委員 さいたま市に住んで長いのですが、東京から見ると、都市軸が放射線状になっていて、県も市も横をつなぐことが弱いと感じています。特にさいたま市で、東西に行く時に非常に不便を感じていて、みんな東京に目を向けてしまっています。また、車の保有台数が全国一位、二位を争うほど多く、通過交通も多いため、それから出される二酸化炭素排出量はとても高くなっているはずです。公共交通機関を使って自動車から脱却し、低炭素なまちをつくっていくためには、東西の流れをつくり、交流をつくっていくことが大事ではないかと常々思っています。今後高齢化しますと、交通面は非常に大事になってくると思いますので、将来的にはどう移動するかという、モビリティの問題も考えると良いのではないのでしょうか。

○部長 次の議題に関わるようなご意見もいただいております、今日は議題がたくさんありますので、次に進ませていただきます。

(3) 都市基盤・交通の分野におけるこれまでの取組と課題等について

(資料3-1に基づき、基本構想における記述、現行基本計画に基づく主な取組、都市基盤・交通分野の主な課題、施策展開(案)について事務局から説明)

○部長 都市基盤ということで、さいたま市はすべての政令市の中で、都市計画道路の整備率が最も低くなっており、また公園も少ないです。交通問題は非常に重要ですし、低炭素社会の中での自転車のさらなる利用や他のモビリティのほか、東北復興の

お手伝いをしていますと、大船渡市ではB R Tというバス専用または優先レーンなどをつくってバスを見直していて、必ずしも鉄道を通さなくても良いという発想もあります。

すみませんが、I C T基盤について、もう少し詳しく説明をお願いします。デジタルを活用したネットワークや交通整理といった意味なのでしょうか。

○I T政策課 I C T基盤につきましては、基本的には、様々な情報をデジタルでお伝えすることが目的となっているのですが、そもそもデジタルで情報をお伝えするにあたっては、情報を取得できる人とできない人がいるという情報格差が非常に問題となっております。この格差を縮小できるように、今後様々な取組を進めていきたいと考えております。

○部会長 交通系は何かやっていますか。例えば、常磐道では柏インターに降りて、ショッピングセンターの駐車場を無料開放しているので、そこからつくばエクスプレスを利用すると早いと宣伝しています。ドイツのパークアンドライドの例もありますが、そういったところまで考えていますか。

○I T政策課 現在のところは、交通などとリンクした情報提供までは進んでいないという現状です。

○部会長 分かりました。他に、何かご意見やご質問等ございますか。

○副部会長 今おっしゃったことは非常に重要だと思います。今後I C Tが主流になることは間違いないので、I C Tや交通を別々でなく複合的に取り組んで、地域の様々な分野でうまくリンクして展開するよう考えていくと良いと思います。

○秋元委員 住んでいる者から見た課題ですが、郊外にどんどん大型店舗ができて、そこに車で買い物に行くという生活スタイルが出来上がっている中で、大宮や浦和以外の市街地にいかに人を集めるか、商店街の活性化をどうしていくのかが見えていないのではないかと感じます。今後、高齢化が進めば、車を持っていない人が増え、地元の商店の活性化は一層重要になると思っています。

○部会長 ご指摘はおっしゃる通りで、分野別に議論するとどうしても見落としがちなことです。郊外型のショッピングセンターは交通手段がなければ行けず、交通渋滞などの問題もあるので、中心地までショッピングセンター側が負担すべきという発想があっても良いのではないかと思っています。あるいは、ドイツでは無駄な車を街中か

ら排除するため、徒歩や公共交通などで済むところは車を使わないようにする運動をしています。ここまでするには、公共交通や教育面の働きかけが必要で、このように、交通や産業をはじめ様々な分野が関係しているのでしょう。

○副部長 今の問題意識に大賛成です。中心市街地や商店街の活性化をどうするかについて、お年寄りが増えると、遠くまで行かなくても、隣で物が買える環境をどのようにつくるかは非常に重要なことですから、これからも議論したら良いと思います。ドイツでは、車の入らないところをつくって、歩きながら買い物をしてコミュニティをつくっていくというやり方もありますので、さいたま市に取り入れたら先進モデルになります。

○森本委員 基本的には、郊外に大規模店舗が立地するという土地利用制度そのものがおかしかったということです。2000年に大規模小売店舗立地法ができて、かなり許容してしまい、それを後追いのまちづくり三法では抑えきれず、未だに大型店舗が郊外にはみ出してきているのです。そのはみ出し方が大きすぎて、さいたま市中心部の駅部分は元気ですが、地方は全部やられてしまっています。この話と今回の都市構造の話は非常に密接につながっていると思っていて、先ほど「集約」という言葉について質問したのは、今後は郊外にこれ以上、大規模店舗を立地させるような土地利用規制を許すわけではないことを確認する意味でさせていただいたものでした。

ここで言いたいのは、交通ネットワークと土地利用の話は車で言うとな輪だということです。土地利用規制をして土地利用を誘導して、集約させるということは、一つには規制するということで、できるだけ公共交通を人にやさしいようにするならば、車を抑制するという発想が必要なのです。この2つの両輪の話について、ある意味で憲法とも言える総合振興計画の中できちんと考え方を書いて、都市計画マスタープランや道路網再編計画に落としていくことが必要なので、すでに書かれていることかもしれないですが、そういうところを意識した文章づくりをお願いします。

○部長 今回は従来型の計画づくりとともに、重点戦略という形で目玉などを入れるようですので、その中で盛り込まれていくと期待しています。他にないようでしたら、次に進ませていただきます。

(4) 環境・アメニティの分野におけるこれまでの取組と課題等について

(資料3-2に基づき、基本構想における記述、現行基本計画に基づく主な取組、環境・アメニティ分野の主な課題、施策展開(案)について事務局から説明)

○部長 ただいまの説明の内容につきまして、ご意見をいただきたいと思います。

○秋元委員 地球温暖化は大きな問題だと思います。さいたま市は熊谷市と同じように気温が高くなりますが、ヒートアイランドが影響していて、真夏は熱中症で倒れる方も多くいます。水と緑の空間の保全と再生に関わることと思いますが、クールスポット、つまり涼しい場所を適宜設け、水と緑を増やしていかなければ、まちが暑くなり体にも影響が出てきます。将来的には、ヒートアイランド対策についても入れていただけると、水と緑の必要性の理由づけにもなると思います。

○部会長 浦和は意外と緑が少ないと感じますので、東京都並みに屋上緑化を進めることなども必要かもしれません。

○丸山委員 資料３－２の「主なデータ（参考）」にあるごみの排出量について、平成１３年度から２３年度までは順調に減っていますが、２４年度はほぼ横ばいとなっています。ごみ分別の細分化をすることになりますと、施設など多々問題が出てきますので、今後さらに、ごみの排出量を減らすには、３Ｒよりも発生抑制を市民に訴えかけることが大切と考えます。

処理施設につきましては、これまで市内で偏りがありましたが、有り難いことに、緑区と西区の他、新たに桜区にも施設が予定されているということです。そういう施設の利用方法について、これからは市民から声を上げられるように、排出したものをどこに持って行くかなどについて、市民の関心を高めるとともに、もう一つ大きな問題は、最終処分場の延命化です。小川町にある県の最終処分場に持ち込める量は限られていますので、政令市としては県のお世話にならずに対応できるように、みなさんで考えていただくようにしてはいかがでしょうか。このように行政が困っていることを表面化させて、市民に訴えかけていく方が、市民の問題意識も高まるのではないかと考えております。

○部会長 今まで行政主導でやっていた部分も、市民参加でやる部分がけっこうあると思っています。私が住んでいる戸田市で焼却施設を更新するという話がありましたが、市民団体による取組でごみの総量を減らした例があります。このうち、私が代表を務めている任意の市民団体では、市が全小中学校の残飯を減らすために導入したコンポスターに残ったものを有機肥料にする取組をしています。焼却施設を新しくするにもお金がかかるので、市民レベルの意識を高めて、みんなで協力し、いつの間にか減量しているようにすることが大事だと感じています。

○副部会長 茨城県やつくば市では、リサイクルや分別に科学技術を利用することを数年前から検討し、一部産業化していて、食べ物のチェーン店では残飯を肥料化あるいは

は飼料化し、また、電化製品を分別してレアアースを取るリサイクル業者もいます。さいたま地域でも近い将来、そういったものをビジネスとしたり、市と組んで半分公共のようなところが担うなど、ごみを資源として活用するサイクルをつくり上げることも前向きな路線としてありますので、情報が必要であれば、いつでも聞いてください。

○石関委員 農協として組合員の色々な考えを紹介したいと思います。見沼田圃は1260haあるわけですが、どのように保全するかが問題です。意外と後継者不足で、不耕作地は埋立地や沼地になってしまいます。地権者の方は本当に保全を望んでいますが、整備をしっかりといただきたいというのが一つの考え方です。

見沼三原則の縛りは無くなりましたが、未だにトイレはなく、駐車場も設置できないという環境です。見沼田圃の自然環境を守るには、東洋トップクラスとも言われる緑地を、なんとか整備していただき、農業をするところ、治水対策などとするよう、組合員からも訴えられています。荒川縁の米地帯にも後継者がおらず、荒れており、自然環境を維持できなくなっています。いつも市や県に訴えていることで、保全や活用は理想的ですが、その前にそういった整備をしていただけたらありがたいと思います。

○部会長 国もようやく農地については抜本的に変えようとしているので、農家が農地を安心して手放せて、公的セクターなどが借り上げたり、農業をやりたい人もいるので、コミュニティビジネスあるいは本格的な産業とすることも考えられます。もう一つは、自分たちでつくったものを自分たちで食べる地産地消のライフスタイルをさいたまの素敵なライフスタイルとして、田圃に囲まれ、さいたま産の食べ物を食べ、規模は小さくても自給自足できるような都市が一つの理想型だと思います。

○猪瀬委員 緑のリサイクルができていません。福島第一原子力発電所の事故による放射能の飛散により、見沼自然公園内の「緑のリサイクルプラント」も、この諸影響でストップしたままです。市内の緑のリサイクル事業を行う事業者も、損害賠償請求を起こしています。それから、見沼田圃に多くの人に来てくれるのは嬉しいのですが、下水道を整備できないためトイレがありません。見沼田圃にバイオトイレを導入して、し尿を資源化すれば、肥料やエネルギーにもなります。バイオマス発電をやるなど面白い話があつて良いと思います。バイオには未来があると思っていますので、見沼田圃は良い実験場になると思います。東京などから来て農業を始める若者もいて、意識の変化が見られるので、そういう人を取り込むためにも、見沼田圃は、人と人のネットワークの基軸になれると思います。ポジティブに見れば面白いものがたくさんあるので、そういう要素を加えられれば良いと思います。

○**部会長** すばらしいアイデアをありがとうございます。今回は、水と緑の分野ですので、農地だけでなく、緑地や公園的な意味の緑地では最近バイオトイレなどがありますし、そういったあらゆるアイデアを使って守っていくということですね。

○**副部会長** 提案ですが、現在市がつくっている計画に対して、みなさんのようなプロの方たちが、要求だけでなく、先ほどのような具体的なアイデアを出していただき、規制が問題であれば地域特区にするなどして、協働で、一緒に具体策を考えていくと良いと思います。

○**部会長** 私は景観も専門としていて、戸田市の景観アドバイザーを務め、三軒協定もつくりましたので、気になった点を言わせてください。埼玉県内の超高層は変に色が付いていると感じていて、景観のデザインの質について、ワンランク上を目指した方が良いと感じています。例えば、施策展開（案）の「3. 人と自然が共生する緑豊かな都市」のタイトルからは景観のことが読み取れませんので、「緑豊かな美しい都市」とするなどして、景観施策をしっかりと誘導していった方が良いと思います。例えば、横浜市や川崎市では都市デザインの視点で取り組んでいますので、今後の駅前開発などにおいても、もう少し頑張っていたきたいと思っています。

○**中邨委員** 私は、この総合振興計画の内容がよく理解されて、具体的な事業が起こされているかと思いながら、みなさんのお話を聞いていました。例えば、資料の「主な取組」にある「見沼田んぼホームページの開設」を「水と緑の空間の保全、再生と創出」にいかに結び付けていくかということは、私の仕事としてあると感じました。

それから、例えば農家など、当事者だけではどうにもできないことについて、いかに連携していくかが大事だと思いました。また、学校の先生に環境教育はできないと考えますと、誰が次世代の子どもたちに現実のものとして環境を伝えるのか、行動できる環境をつくるためには、どういう基本計画をつくるかという視点でご意見を伺っていました。

○**部会長** 先ほどのICT基盤の話にも関係しますが、例えば、魅力的に生活するために、つくば市はつくばスタイル、柏市は柏の葉スタイルを情報発信しました。先ほども言いましたように、さいたま市は見沼田圃に囲まれたすばらしい市街地ですから、そういうライフスタイルがいかに素敵かを情報発信することが非常に大事だと思います。スウェーデンでは週末にクラインガルテンで泊まることができ、トイレやゲストハウスがあって、素敵な環境を享受できるようにすることで本当に良さが分かるように、そこまでイメージを膨らませなければ、今の枠組みだけで考えていくと、言葉

は正しいですが、実際はうまくいっていないということになってしまいます。まさに情報も非常に大事だと思います。

それでは、時間も限られていますので、次の議題に入らせていただきます。

（５）産業・経済の分野におけるこれまでの取組と課題等について

（資料３－３に基づき、基本構想における記述、現行基本計画に基づく主な取組、産業・経済分野の主な課題、施策展開（案）について事務局から説明）

○部会長 ただいまの説明の内容につきまして、ご意見やご質問等ございますか。

○猪瀬委員 さいたま市には人材はたくさんいますが、市内では食べていけないので、東京に出て稼いでいる状況です。私たちの活動を学生は手伝いに来てくれますが、卒業してからも来る人は公務員など安定した職業の人が多いので、市内でも食べていける仕組み、創造的な人材が市内に残るような仕組みが必要です。行政に頼ることではないかもしれませんが、何か成功事例がなければ難しいと率直に感じています。

○中邨委員 まさにおっしゃる通りです。資料３－３の「主な課題」の「５．雇用等」に「市内産業・企業のニーズに応じた産業人材育成等の支援」とありますが、私は小中学生を対象にキャリア教育の必要性を感じ１０年近くやっています。一方、行政が課題として挙げるのは大学生の就労支援が多くて、名の知れた大企業への就職を目的としているとしますと、市内はほとんどが中小企業ですので、中小企業に対応できない人育てを学校教育の中でしているのではないかと常々感じています。地域の企業とともに若い人を育て、スムーズに移行させていくという就労支援事業が求められているのであって、大学生の就職支援ではなく、もっと広い意味で就労支援という言葉捉えていきたいと感じています。

○部会長 学部にもよりますが、傾向としてはおっしゃるように、学生というよりご両親の希望が強く、一部上場企業から決めていくという流れはあるようです。私としては、市内で魅力的に働ける創造的な環境があって、職住近接していて、週末は田圃の手伝いをするのが理想的だと思います。今までは企業誘致という他力本願が強かったのですが、資料の「施策展開（案）」に「次世代産業の育成」とありますように、イギリスの国策であるクリエイティブ産業として、例えばアニメや鉄道など市内の様々な資源や人材を生かして、横浜市や川崎市とは違う、さいたま市にしかできない、新しい産業を生み出していくという発想を強く出すよう期待したいです。

○中邨委員 思うことが２つあって、まず、働くことはライフスタイルなので、さいた

ま市らしい、例えば豊かに生きられるといった情報発信のあり方を、働き方の中につなげることができると良いと思います。

それから、会社をやっている側から言いますと、雇用は非常に難しいです。県とともに女性の働き方講座もしていますが、多様な働き方を会社側が認めようとするほど、色んな制度の壁にぶつかり、お金もかかり、日々社会保険労務士と対策を探っているのが現状です。中小企業が多様なライフスタイルに合わせた雇用をスムーズにできるような整備について、具体的には言えませんが、さいたま市らしい形を見せられると、働き方の幅も広がると感じます。

○部会長 個別のアイディアはこれから出していけるとと思います。例えば、県内や市内で起業する場合は色々な支援をするなど、三鷹市のインキュベート施設の例もあります。また、世界的なサイエンスパークの流れを見ると、先端大学では民間企業とビルを共有して、そこで研究をしています。さいたま市は単に大学があるだけで、もちろん個別に協定を結んで研究している場合もありますが、もっとダイナミックに連携して、大学や民間企業等を含め、積極的に新しいものを生み出すといった先進的な発想で取り組まなければ、世界規模で戦っていけないと感じています。

○副部会長 今のお話に関連して、例えば、九州大学では、ドイツのシュタインバイス・ジャパンという産学連携の組織を持っていて、そこが外の産業界や大学の先生とのつなぎ役をしていて、その組織に入れば、大学の先生は兼業で研究が簡単にできるようになっていて、当然ここに研究生が入ってきます。外と内との境目、バッファー的な、新しいイノベーションを生み出す機能を持っているのです。そういう組織を他の地域にもつくろうとしましたが、なかなか広まっていきませんでした。

以前、中小企業への就職を支援するため、産業人材育成の制度に関わったことがあります。工業専門学校などを対象として、大田区のものづくりに優れた中小企業が展示発表したり、学生と社長などが話す場をつくって、学生が中小企業に就職する橋渡しができたと記憶しています。前述したシュタインバイス・ジャパンのような組織をつくるほか、このようにイベントとして中小企業を見せるチャンスをつくるなど、いろいろな方法が考えられます。新しいイノベーションを起こせる変革を恐れない若者をつくり出すことが必要だと思います。

○部会長 今のお話とサイエンスパークには共通点があって、いわゆるサロンのようなカフェがあって、技術者や経営者などが会議室の外で、気軽に情報交換できる場となっています。柏の葉で東大がつくろうとしているもので、さいたま市もそういう発想のもとで、戦略的に産業を育成して生き残っていくことが大事です。

○吉田委員 水と緑の分野に戻りまして、私はよく見沼田圃を散策しますが、地権者の問題や放置された田圃と耕作地が散在している印象があります。また、散策には2時間半程度かかりますが、トイレはなく途中で引き返すこともあって、市民の憩いの場ではあっても施設がありません。先ほど言われたように、コミュニティの施設やトイレを設置するなどして、見沼田圃がもっと市民の憩いの場となるようにしてもらいたいと思います。また、東京など都市部からも人が集まるような施設になっても良いと思っています、そういう施設がある場所に住みたいという気持ちです。

○茂木委員 産業・経済の分野について、まさに書いてある通りの課題だと思います。雇用の関係で言うと、私は市と一緒に工業高校のインターンシップ事業をしていますが、結局、景気が良ければ違うところに行ってしまうし、景気が悪ければ、ある程度地元にも来るといったように景気に左右されて、インターンシップがどれだけ効果を挙げられるかが課題と感じているところです。

また、中小企業を生かすには技術が必要で、市内には大学が多いので、もっと交流を深める必要があると思っています。

それから、はじめの議題に戻りますが、大型店が郊外に出て、逆に中心部にはマンションができて、中心商店街が寸断され、後継者不足もあいまって、中心市街地の商業はますます厳しい状況になっています。都市計画の中でやっていくこともあります。ある程度エリアで区切って、マンションの下には商業施設を入れるなど工夫していかないと、集約化により中心部にマンションが集約して終わってしまうことになりかねません。

最後に、コンベンション施設をつくるなどして、スポーツコミッションなどのイベントをやる際にも、市内にお金が落ちるように、民間の力をうまく誘導する仕組みも必要だと思っています。

○部会長 まさにおっしゃる通りで、住宅だけで都市は食べていけません。鎌倉市や浦安市のように、よほど高所得者が多くなければ、支出の方が多くて、都市としては経営できません。そのため、産業や企業を誘致するか、一定規模以上の建物はマンションだけでなく複合施設にするなど、これから開発を誘導していくにあたっては、開発許可等の条例の中でも変更していくことは十分に考えられます。

○上田委員 本日は3つの分野について議論して、分野別にやることも必要ですが、それぞれを突き通して、例えば、都市基盤の整備で電柱の地中化をしたら、環境・アメニティの分野では、電柱を地中化した後に木を植えるなど、また、それらを総合的に行うには、地域の人と、それを実行する役所との役割分担をきちんと決めると、そこにまた新たな仕事が発生してくると思います。ですから、あまり分野を強調せずに、

お互いの分野が連携して、新しい仕事を最終的につくりあげていこうと、それも地域でないとできない仕事を考えたいと思っています。

○部会長 実は私の学科は環境システム学科システム理工学部で、まさに近代教育や都市計画の反省の上に立ってできたものです。専門化して考えるのは効率が良いのですが、全体のバランスが分からなくなってしまうので、総合的に物事を考える能力が必要ということで、私の学科では建築と都市と環境の3つを総合的に学べるようになっていきます。総合的に物事を考えて、その関連性の中でどう考えるかというので、場合によっては福祉の分野も絡めて、他部会への書きとめなどとして、必ずしもこの部会に限らず、関連する議論も一緒にやっていきたいと思っています。

○猪瀬委員 農園をやっていて、本田技研工業が応援してくれています。なぜかと言いますと、小さな耕運機が今フランスで一番売れていて、パリジャンが郊外で畑仕事をするのにちょうど良いのです。私たちの農園では必要ですが、今の市民農園の規模では必要ありません。ただ、そういう文化は日本にも必ず来るという発想を持って、産業を守るというのはそういうことだと思います。新たなイノベーションは生活スタイルを提案していく時が来るかどうかだと思います。特に水と緑と言うならば、そうしたスタイルが来て当たり前で、農協はそうした役割を果たすポジションにいると思います。例えば、農協が日曜に開いて色々と貸してくれれば、ホームセンターにわざわざ買いに行かなくてとても助かります。そういった意味で、活性化は足元にあることであって、緑を資源や資産と考えたり、農地を資源化するには利用と所有を分けて信頼関係をつくるなど、形が見えると面白くなります。緑と農を実現するような環境を、できると思うので、この計画の中に反映できれば良いと思います。

○部会長 まさにそういう施策のアイディアを持ちながら、最終的には言葉としては上積みの部分だけになってしまうかもしれませんが、戦略がないとイメージできないと思います。実は私は市民による花壇の管理もしていて、日本が遅れていると感じたのは、市が草刈り機などの貸出をしていないことです。ヨーロッパではこうしたことは当たり前なので、日本でも貸し出すようにするか、あるいはメーカーと新たな器具を開発しておしゃれに掃除をお手伝いするといった取組があっても良いと思っています。また、自転車についても、県内にはメーカーがたくさんあるので、カッコ良い自転車や高齢者も使える三輪車の開発など、そういうところからビジネスやライフスタイルが見えてくることもあるのです。そういう議論が実は大事で、こうした従来型の施策も大事ですが、横断的な発想の中で物事を考えていくことが非常に大事だと私も思います。

○副部長 モビリティに関連しますと、芝浦工業大学と埼玉大学、本田技研工業でグループをつくって、さいたま市が事務局として融合的に取り組んでおり、他にも市内では新しい息吹が動いています。こうした色んなイノベーションが地元から起こっていくという構造をつくりたいです。

○秋元委員 先ほどから情報の話がたくさん出ていますが、これからは情報化時代だと思いますので、安全安心や防災などに関する情報を、どのように提供していくかが非常に大事になってくると思います。そうした仕組みや計画が市としても大事になると思うので、次回以降も検討していただければと思います。

○部長 むやみに情報を発信するのではなく、まちをプロデュースすることが大事で、例えば、さいたまスタイルなど、有効な情報をいかにつくり出して発信していくかが、これから求められていくと、今日のお話を聞いていて感じました。
お話は尽きませんが、本日の意見交換はここまでにしたいと思います。

(6) その他

(第1回部会の開催日程について事務局から連絡)

- ・5月21日(火) 午後2時から、市民会館うらわ1階101集会室

○部長 以上をもちまして、本日の議事は終了させていただきたいと思います。
委員の皆様のご協力により、円滑な議事進行ができましたことにお礼申し上げます。
次回からは、各分野の施策についての具体的な審議に入りますが、引き続き活発な議論を、よろしくお願いいたします。

9 閉会

以上